

Asia Indicators

発表日: 2020年10月2日(金)

韓国・輸出は世界経済の回復期待で再び底入れ(Asia Weekly(9/27~10/2))

~豪州・小売売上高はビクトリア州の都市封鎖の影響で底入れの動きが一服~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/28(月)	(マレーシア)8月輸出(前年比)	▲2.9%	+4.8%	+3.1%
	8月輸入(前年比)	▲6.5%	▲4.3%	▲8.7%
9/29(火)	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	▲3.0%	▲2.8%	▲2.4%
9/30(水)	(中国)9月製造業 PMI	51.5	51.2	51.0
	9月財新製造業 PMI	53.0	53.1	53.1
	(タイ)8月製造業生産(前年比)	▲9.34%	▲12.55%	▲12.93%
	(香港)8月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲13.4%	--	▲23.8%
10/1(木)	(韓国)9月輸出(前年比)	+7.7%	+2.0%	▲10.1%
	9月輸入(前年比)	+1.1%	▲4.9%	▲15.8%
	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+1.42%	+1.42%	+1.32%
	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	2.25%	2.25%	2.25%
10/2(金)	(豪州)8月小売売上高(前月比・季調値)	▲4.0%	▲4.2%	+3.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]~世界経済の回復期待や中国の国慶節前の駆け込みの動きも重なり輸出に大きく底入れの動き~

29日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比▲3.0%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲2.4%)からマイナス幅は拡大した。前月比も▲0.67%と前月(同+1.94%)から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移しており、経済活動の正常化や世界経済の回復期待などを背景に底打ちの動きがみられた流れに一服感が出ている。服飾関連をはじめとする軽工業部門で生産拡大の動きがみられるほか、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や化学製品関連や鉄鋼関連などの生産にも底堅さがみられる一方、自動車をはじめとする輸送用機器関連や電気機械関連などでの生産に一服感が出ており、生産全体の重石となる動きがみられる。さらに、消費財関連や資本財関連で幅広く生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、国内景気の弱さも生産活動の足かせになっている。結果、平均設備稼働率も69.6%と前月(70.1%)から▲0.5pt低下するなど、頭打ちの様相を強めている。

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+7.7%となり、前月(同▲10.1%)から7ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れが進んでいる。同国内における経済活動の正常化

に加え、最大の輸出相手である中国をはじめとする主要国での経済活動再開を受けた世界経済の回復期待の高まりが押し上げに繋がっている。国・地域別では、中国向けのみならず、米国やEU、日本など先進国向けも底入れの動きをみせているほか、中東や中南米など新興国向けにも底打ち感が強まる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+1.1%となり、前月（同▲15.8%）から7ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底入れが進んでいる。輸出の堅調さに加え、中国の国慶節前の駆け込みに伴う需要押し上げに向けた動きも輸入を押し上げたとみられる。結果、貿易収支は+88.80億ドルと前月（+38.38億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 KR 鉱工業生産の推移

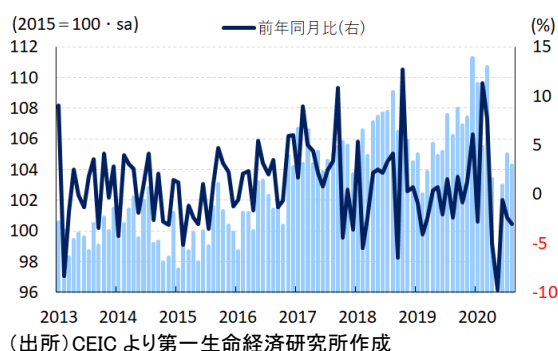
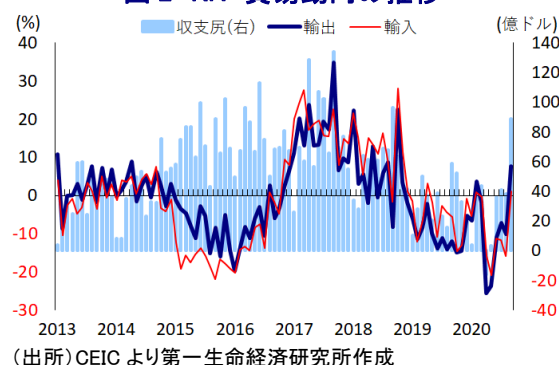


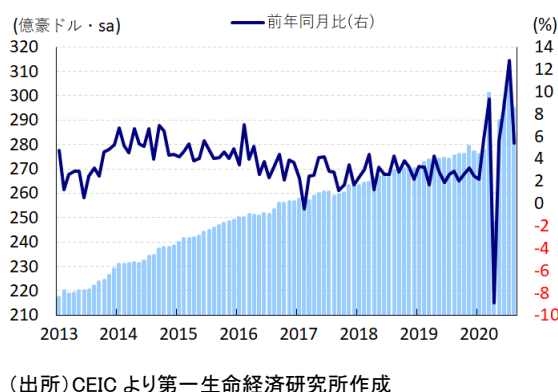
図2 KR 貿易動向の推移



[豪州]～ビクトリア州の新型コロナ感染拡大による都市封鎖再発動の余波で小売売上底入れの動きは一服～

2日に発表された8月の小売売上高（季節調整値）は前月比▲4.0%となり、前月（同+3.2%）から4ヶ月ぶりの減少に転じた。中期的な基調を示す前年同月比の伸びも+5.4%と前月（同+12.8%）から伸びが鈍化しており、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染収束による経済活動の再開に伴うペントアップ・デマンドの発現などを受けて家計消費に底打ち感が出ていた流れが一服している。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて都市封鎖が再発動されたビクトリア州で大きく下振れしたことが影響したほか、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州など大都市部のみならず、地方部でも減少の動きがみられるなど、全般的に家計消費底入れの動きに一服感が出ている。

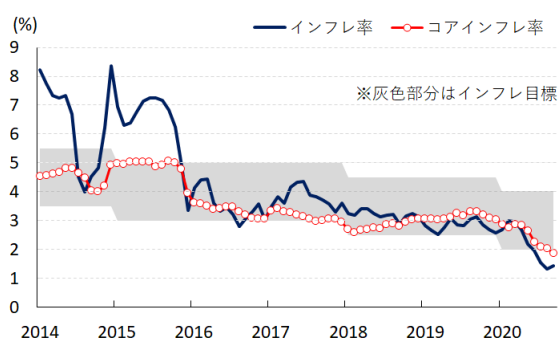
図3 AU 小売売上高の推移



[インドネシア]～生活必需品を中心に物価下落が続いている上、景気の先行き不透明感も物価の重石に～

1日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.42%となり、前月（同+1.32%）から伸びが加速した。ただし、前月比は▲0.05%と前月（同▲0.05%）から3ヶ月連続で下落しており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格が落ち着いているほか、生鮮品を中心に食料品価格は下落傾向で推移するなど、生活必需品で物価に下押し圧力が掛かっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.86%となり、前月（同+2.03%）から伸びが鈍化しており、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標（3±1%）の下限を下回っている。前月比も+0.13%と前月（同+0.29%）から上昇ペースが鈍化しており、教育関連など一部のサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きはみられるものの、エネルギー価格の低下に伴う輸送コストの下振れを反映して幅広い財価格に下押し圧力が掛かっているほか、サービス物価も鈍化傾向を強めるなど、景気の先行き不透明感などを受けて物価上昇圧力が後退している。

図4 ID インフレ率の推移

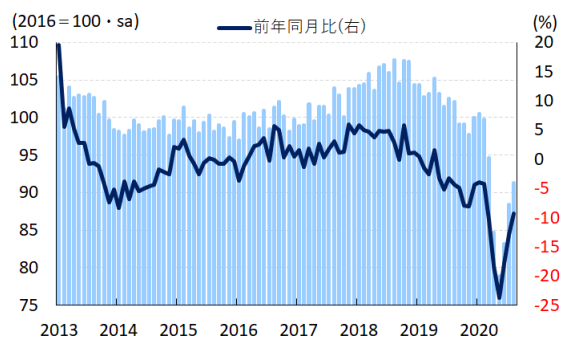


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～経済活動再開や世界経済の回復期待は生産底打ちを促すも、依然として力強さを欠く展開が続く～

30日に発表された8月の製造業生産は前年同月比▲9.34%と16ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲12.93%）からマイナス幅は縮小した。前月比は+3.31%と前月（同+6.27%）から3ヶ月連続で拡大しており、経済活動の正常化や世界経済の回復期待などを背景に生産活動は底打ちしているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。財別では、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機器関連で生産底入れの動きが強まっているほか、電子部品関連を中心とする電気機器関連の生産にも底堅い動きがみられる上、化学製品関連や衣類をはじめとする繊維関連の生産も堅調に推移するなど、輸出財で生産拡大が進んでいる一方、食料品や金属関連などで生産拡大の動きに一服感が出ていることが重石になっている。

図5 TH 製造業生産の推移

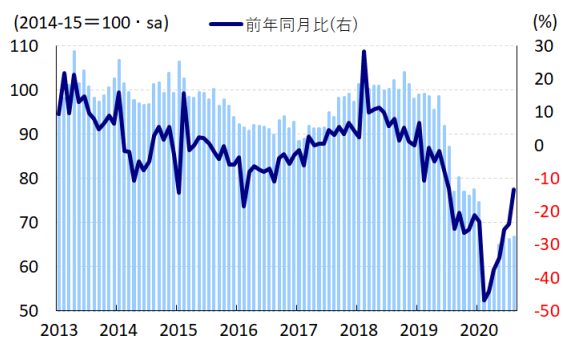


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～新型コロナの感染収束による経済活動の再開を受けて、小売売上高の動きに底入れ感が出ている～

30日に発表された8月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比▲13.4%と19ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲23.8%）からマイナス幅は縮小した。前月比も+0.6%と前月（同▲3.2%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染収束を受けた経済活動の再開に伴い消費活動に底入れの動きが進んでいる。自動車や家具といった耐久消費財に対する需要に底打ち感が出ており、経済活動の再開を受けてペンタアップ・デマンドが発現していることに加え、食料品をはじめとする生活必需品に対する需要も堅調な推移をみせている。一方、宝飾品などの高額品に対する需要は引き続き弱含む展開が続いており、雇用・所得環境の悪化が消費の足かせとなる状況が続いていると捉えられる。

図6 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



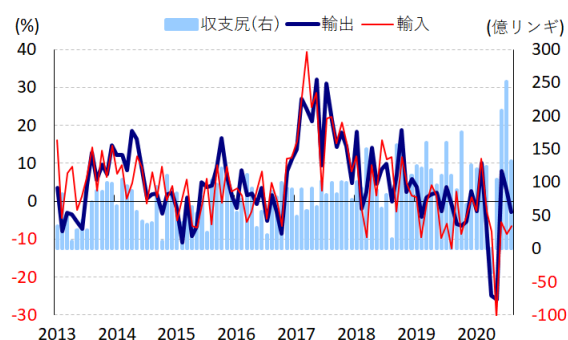
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～経済活動の再開や世界経済の回復期待を受けた輸出底打ちの動きに早くも一服感が出る～

28日に発表された8月の輸出額は前年同月比▲2.9%となり、前月（同+3.1%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲14.5%と前月（同+1.6%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、経済活動の再開の動きや世界経済の回復期待などを背景に底打ちしてきた流れに一服感が出ている。種類別では、主力の輸出財である電子部品や電気機械をはじめとする機械製品関連の輸出は比較的堅調な推移をみせているものの、パーム油や天然ゴムなどをはじめとする農産品関連の輸出は鈍化しているほか、国際商品市況の底入れ一服の動きを反映して鉱物資源関連

の輸出の鈍化が全体の重石となった。国・地域別では、中国や米国向けなどに堅調な動きがみられるものの、ASEAN周辺国向けのほか、インドなどアジア新興国向けの鈍化が輸出全体の下押しに繋がっている。一方の輸入額は前年同月比▲6.5%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲8.7%）からマイナス幅は縮小した。前月比も▲2.2%と前月（同+1.5%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。農産品関連の輸入に底堅さがみられるものの、鉱物資源関連や製造業関連の輸入は引き続き弱含む展開が続いている。結果、貿易収支は+132.28億リングと前月（+251.76億リング）から黒字幅が縮小した。

図7 MY 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。